

映画「銀河鉄道の父」とは

第158回直木賞受賞作「銀河鉄道の父」(門井慶喜 著)を映画化した本作。世界中から愛される宮沢賢治が「ダメ息子だった!」という大胆な視点を軸に、大量の宮沢賢治の資料の中から父・政次郎について書かれた資料をかき集め、究極の家族愛を描いた。

5月5日から全国公開中。県内では▷フォーラム盛岡▷盛岡中央映画劇場▷盛岡ルミエール▷イオンシネマ北上▷一関シネプラザにて公開(5月5日現在)。

あらすじ

宮沢賢治の父・宮沢政次郎。父の代から裕福な質屋であり、長男である賢治は、本来なら家を継ぐ立場だが、適当な理由をつけてはそれを拒む。学校卒業後は、農業や人造宝石、宗教と我が道を行く賢治。政次郎は厳格な父親であろうと努めるも、賢治のためなら、とつい甘やかしてしまう。やがて、妹・トシの病気を機に、賢治は筆を執るも一。



©2022「銀河鉄道の父」製作委員会 © 門井慶喜/講談社



⑤定員の10倍の応募があった本試写会。賢治の肖像画が見守るホワイエから入場する市民の皆さん
⑥花巻農業高校鹿踊部の演舞⑦上田市長より記念品「瀬山焼・銀河」を受け取る役所さん



①舞台あいさつ。前列左から上田市長、達増知事、成島出監督、役所広司さん、森七菜さん、フラワーロールちゃん。後列は花巻農業高校鹿踊部の皆さん②花巻の印象について話す成島監督③花巻弁であいさつをする役所さん④撮影のエピソードを振り返る森さん

特集・宮沢賢治没後90年事業 映画『銀河鉄道の父』特別試写会を開催しました

4月8日、花巻市文化会館で映画『銀河鉄道の父』特別試写会を全国公開に先駆けて開催しました。上映前の舞台あいさつには、賢治の父・政次郎を演じた役所広司さん、妹・トシを演じた森七菜さん、成島出監督が登場しました。

舞台あいさつは鹿踊の演舞で幕開け

鹿踊の演舞を披露したのは、賢治がかつて教鞭をとった花巻農業高校の鹿踊部。生徒たちは、舞台裏での緊張を感じさせない、堂々とした演舞を披露しました。

主演・監督が撮影秘話語る

鹿踊の演舞後、サプライズゲストの役所広司さん、森七菜さん、成島出監督が登場。役所さんは「今日はお越しいいただき、ありがとうございます」と花巻弁を交えてあいさつすると、来場者は大きな拍手と歓声で迎えました。

映画の撮影は令和4年5月〜6月にかけて行われ、市内では賢治が農業の知識や技術を講じた私塾「羅須地人協会」、雨ニモマケズ石碑の東にある「下ノ畑」といった賢治ゆかりの地で撮影されました。

役所さんは『羅須地人協会』でのシーンは、賢治と政次郎の関係が一番幸せな時。妹の死から賢治が立ち直り、農業をしながら「と物語の展開を言い掛けてためらう場面もあり、会場の笑いを誘いました。

森さんは「下ノ畑」周辺の北上川沿いの土手を自転車で行ったり、太陽の良い出具合を2時間待ったりしたエピソードを披露。「花巻は風や川のおいなどが心地よく、自然豊かな香りと雄大な自然、大きな空の下で撮影できました」と笑顔で振り返りました。

撮影のために何度も花巻へ足を運んだという成島監督。「撮影をしていて、自然の豊かさや厳しさ、人の温かさに触れ、この土地柄が宮沢賢治という世界的作家を育んだと思った」と賢治について語りました。

市民500人が映画を堪能

3人には上田市長と達増知事から記念品が贈られ、舞台あいさつが終了し、試写会がスタート。笑いあり、涙ありの内容に、上映後、会場はしばらくの間、拍手に包まれました。